

平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

苫小牧市立青翔中学校

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 子どもの体力が低下している状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象

- 中学校第 2 学年の全生徒

(3) 調査の内容

- ① 生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
 - ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（20m シャトルラン）、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - イ 質問紙調査
- ② 学校に対する質問紙調査

(4) 調査の方法

- 悉皆調査

(5) 調査の実施期間

- 平成 28 年 4 月から平成 28 年 7 月までの期間で実施

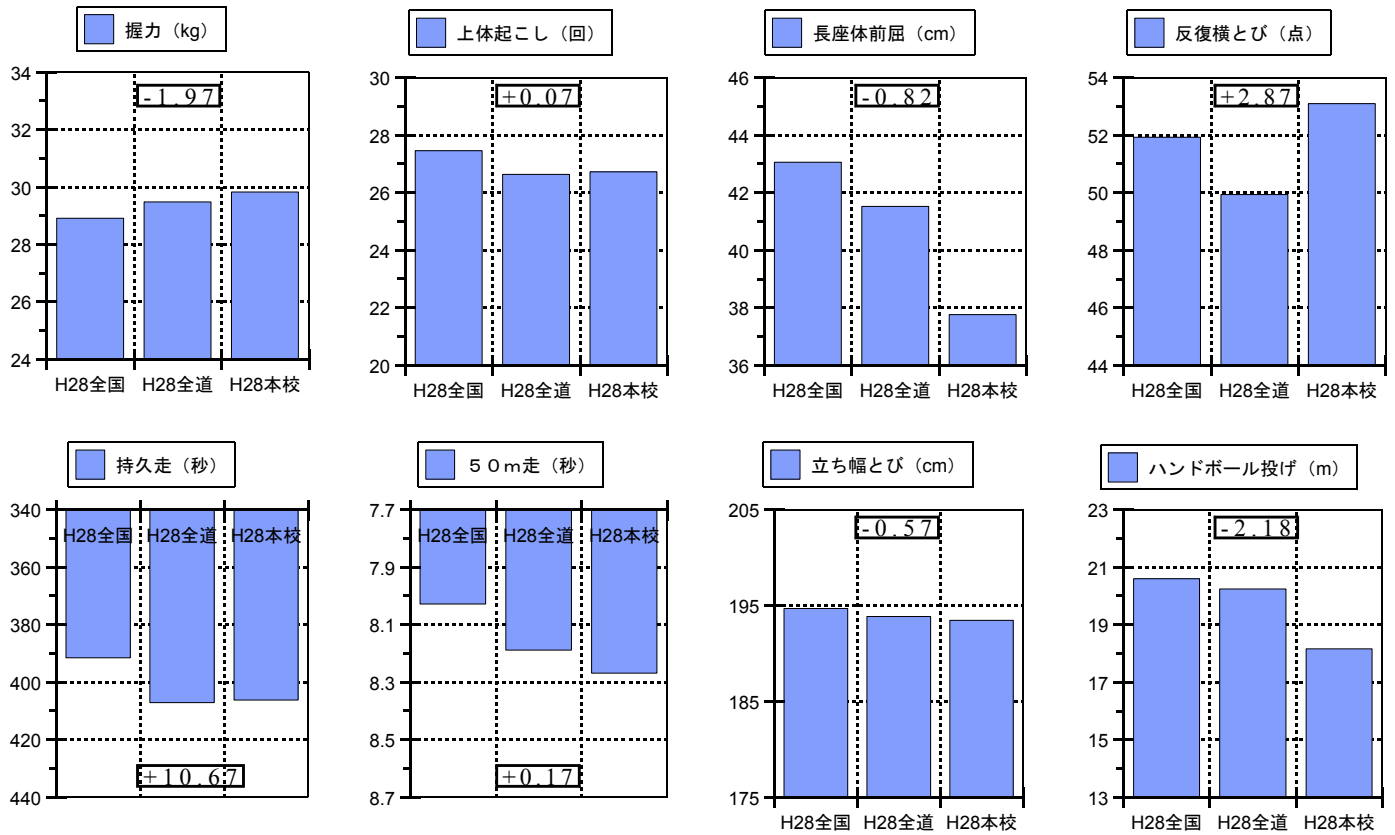
(6) 調査実施生徒数

- 男子 105 人、女子 119 人（計 224 人）

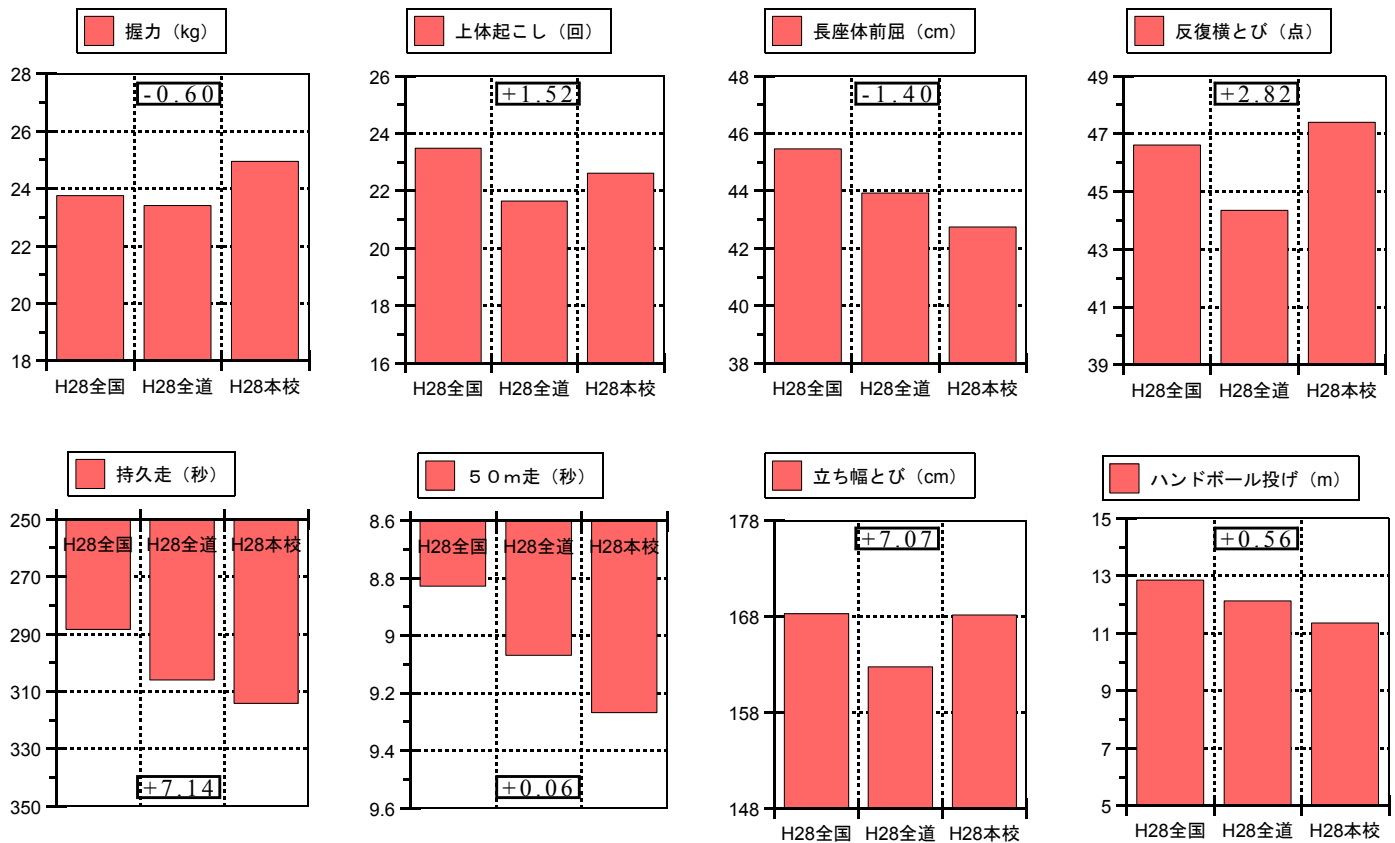
2 実技に関する調査

※「+」「-」で示してある数値は、本校のH27年度との比較。
+は今年度の数値の方が高いことを示す。「持久走」「50m走」の+は、「昨年度より早くなった」という意味。

【中学校 2 年生男子】



【中学 2 年生女子】



3 体格と肥満度に関する調査

【中学2年生男子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
H28 全国	159.90	48.54	7.7	89.8	2.5
H28 全道	161.34	50.18	9.5	87.4	3.1
H28 本校	160.26	49.65	7.7	91.4	1.0

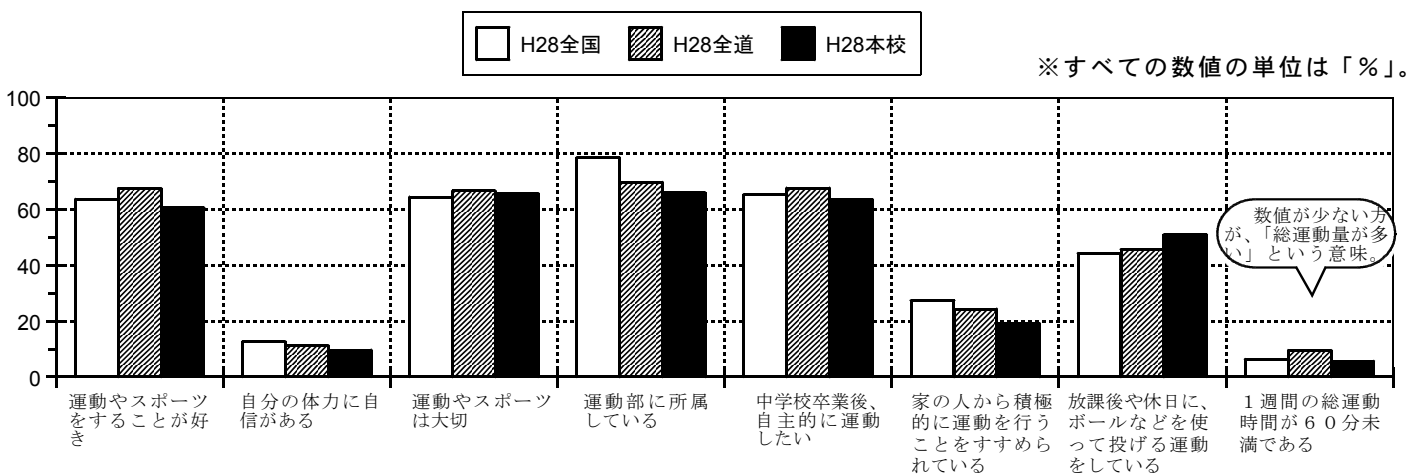
【中学2年生女子】

	体 格		肥満傾向児・痩身傾向児		
	身長 (cm)	体重 (kg)	肥満 (%)	正常 (%)	痩身 (%)
H28 全国	154.83	46.73	6.6	89.5	3.8
H28 全道	155.31	47.03	7.4	88.4	4.2
H28 本校	154.56	47.64	8.4	89.1	2.5

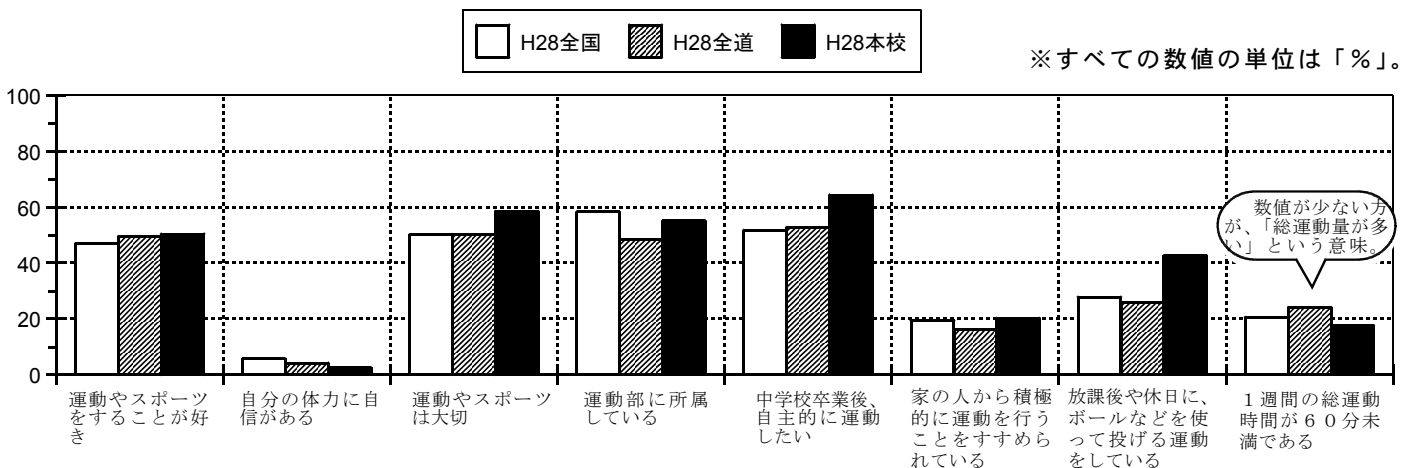
4 生徒質問紙調査

(1) 運動習慣等の状況

【中学2年生男子】

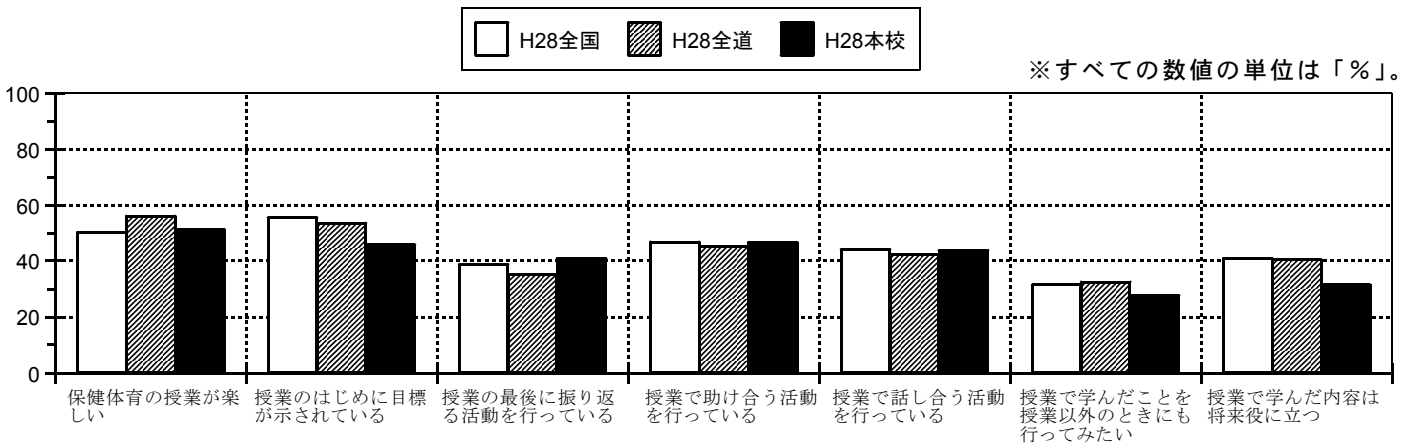


【中学2年生女子】

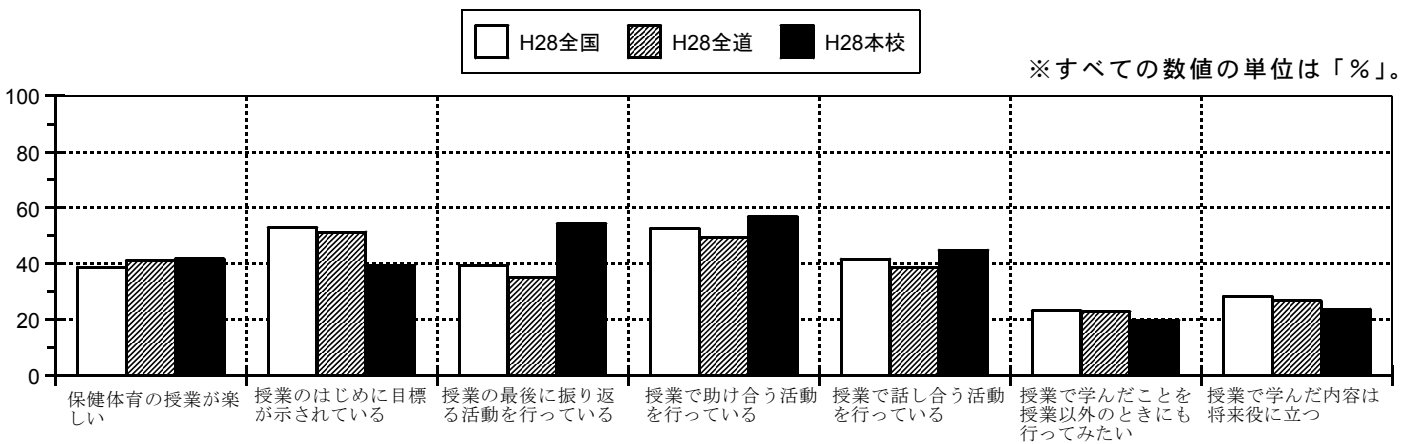


(2) 保健体育授業の状況～授業に対する意識～

【中学2年生男子】



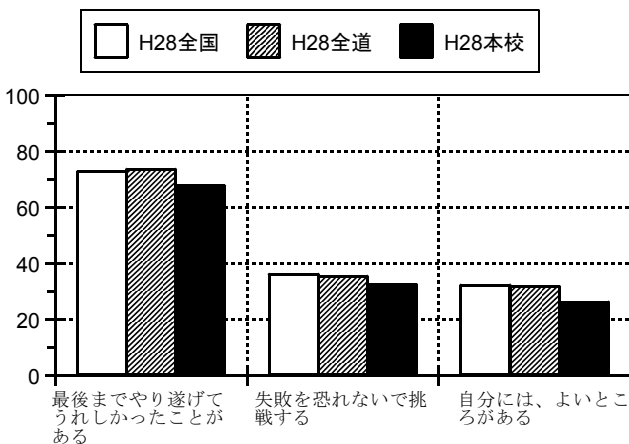
【中学2年生女子】



(3) 自尊意識

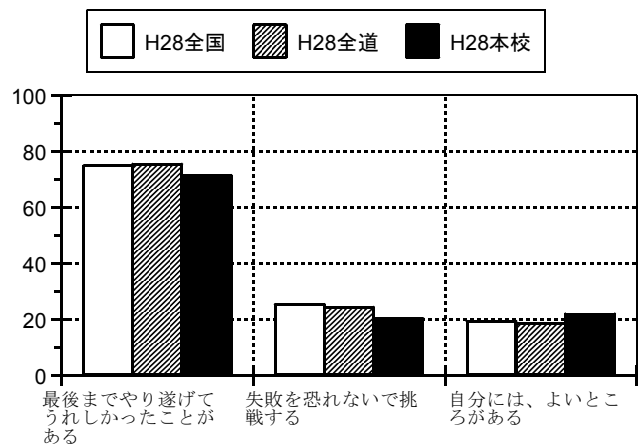
【中学2年生男子】

※すべての数値の単位は「％」。



【中学2年生女子】

※すべての数値の単位は「％」。



5 実技に関する調査

【中学2年生男子】

- 「握力」「反復横とび」は、全国・全道平均を上回っている。
- 「上体起こし」「持久走」は、全道平均を上回っている。
- 課題種目として、「長座体前屈」「50m走」「ハンドボール投げ」が考えられる。
- ◇ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）において、「長座体前屈」の記録が低下している。

【中学2年生女子】

- 「握力」「反復横とび」は、全国・全道平均を上回っている。
- 「上体起こし」「立ち幅とび」は、全道平均を上回っている。
- 課題種目として、「長座体前屈」「持久走」「50m走」「ハンドボール投げ」が考えられる。
- ◇ 同一集団の比較（1年生時の記録と2年生時の記録の比較）において、「長座体前屈」「立ち幅とび」の記録が低下している。

- ・ 今後の体育の授業において、「導入段階での『柔軟運動』」や「マットを使った運動で『立ち幅跳び』『柔軟運動』の実施」、また、「一単位時間の中で十分な運動量の確保」に重点を置いた授業展開を図っていく。また、時期的なことも考え、柔軟性や筋パワーの目安となる「長座体前屈」「立ち幅とび」を強化する補強運動を実施するとともに、この2種目については、再度測定を実施し、その成果を検証することとする。
- ・ 男女とも、「ハンドボール投げ」に課題が見られるが、生徒質問紙調査における「放課後や休日にボールなどを使って投げる運動をしている」と回答する生徒の割合が、全国・全道平均を大きく上回っていることから、今後、向上が見られるものと考えられる。

6 体格と肥満度に関する調査

- 男女とも、体格（身長・体重）において、全国・全道平均との大きな差異は見られない。
- 男子においては、高度痩身傾向の生徒は認められない。
- 女子においては、高度肥満・高度痩身傾向の生徒は認められない。
- 総括として、体格等において、全道・全国平均から見ても、本校の生徒は良好な状態にあると言える。

7 生徒質問紙調査

（1）運動習慣等の状況

- 男子は、全国・全道との比較において、「運動部に所属している」と回答している生徒の割合が低く、「ボールを投げる運動をよくしている」との回答の割合が高いが、全般的に大きな差異は見られない。

- 女子は、全国・全道との比較において、「運動が好き」「運動は大切」「中学校卒業後、自主的に運動したい」「家の人から積極的に運動を進められている」「ボールを投げる運動をよくしている」と回答している生徒の割合が高く、運動に対する意識が高まっていると考える。また、「1週間の総運動時間」も全国・全道平均より高い状態にある。

(2) 保健体育授業の状況～授業に対する意識～

- 男子は、全国・全道との比較において、授業中の活動については、大きな差異は見られない。
- 女子は、全国・全道との比較において、授業中の「振り返り」「助け合い」「話し合い」の活動は良好な状態にある。
- 男女とも、全国・全道との比較において、「授業で学んだことを活用したり、将来役立てようと考えたりする」生徒の割合は、やや低い傾向にある。また、「授業のはじめに目標が示されている」と回答している生徒の割合が低い。

① 授業の焦点化（課題は黒板に書き、赤のチョークで囲む）

→50分間の授業がスモールステップとなるように、その授業の課題を焦点化し、その「課題」と授業の終わりの「まとめ」が一致するようにする。

② 授業のイメージ化（授業のはじめにわかりやすく生徒に説明する）

→50分間の授業で生徒が何ができれば（何が分かれば）よいかイメージさせる。

授業のはじめにこれまで学んだことを確認したり、授業の最後には次の授業の内容を予告したりするなどして、生徒が教科の単元のゴールを意識できるようにする。

③ 授業の可視化（復習などの家庭学習に役立つノート指導をする）

→学習の課題、授業の流れ、生徒が分かったことを板書して、ノートに書かせる。

【上記は、「青翔中だより（11月号）」（H28, 11, 28発行）で各家庭にも提示した本校の全教科で取り組む授業改善の3本柱（SEISHO STANDARD I）】

保健体育科の授業では、上記の取組を継続・強化していく中で、次の3点を重点化し、授業改善を推進する。

- ・「実技に関する調査」で明らかになった課題種目を補強運動の中で強化していく。
- ・生徒自身において、授業の流れを意識できるように、授業導入時の「課題の確認」を工夫する。
- ・自己の記録の変化などを明示し、生徒自身において達成感をもたせるのと同時に、保健分野の指導の充実など、実生活に生きる授業を実践する。

(3) 自尊意識

今年度から新たに追加された調査項目（新項目）。本校では、特に「最後までやり遂げてうれしかったことがある」「自分には、よいところがある」と回答する生徒の割合を高めていきたいと考える。